出水総合医療センター
創立100周年に寄せて

100th Anniversary

Izumi General Medical Center

出水総合医療センター 創立100周年に寄せて

鹿児島市病院事業管理者・鹿児島市立病院長
鹿児島大学名誉教授　坪　内　博　仁

出水総合医療センターの創立100周年、誠におめでとうございます。開設者の椎木伸一出水市長、病院事業管理者の鮫島幸二先生、院長の花田法久先生、並びに職員の皆様方に、心よりお慶び申し上げます。

出水総合医療センターは、1925年（大正14年）米ノ津町立米ノ津医院として開設され、2006年に現在の出水総合医療センターに名称変更されているので、1950年（昭和15年）鹿児島市立診療所として開設された鹿児島市立病院よりも、25年も長い歴史を紡いでいます。この間、第二次世界大戦や戦後の困難な時期を含め、この病院で診療に携わって来られた多くの先人のご苦労に、心から敬意を表します。

私は、2005年に鹿児島大学大学院医歯学総合研究科消化器疾患・生活習慣病学教授に就任しましたが、医局に消化器内科医が極めて少なく、県立大島病院ですら消化器内科医の派遣が出来ていない状況でした。幸い入局者が増えて、翌年から順次、県立大島病院を皮切りに県下の中核病院にチームで医師を派遣し、消化器診療体制を整備しました。次は、出水と思いながらも、従来、出水は旧第一内科と第三内科の関連病院で、派遣を躊躇していました。その頃、旧第二内科の先輩から出水の話があり、当時の事業管理者・院長の瀬戸　弘先生から要請を受け、2012年、腎臓グループも含めた嵜山敏男先生（現済生会川内病院長）のチーム、医師５人を派遣しました。瀬戸先生をはじめとする病院事業管理者や病院職員の皆様方の尽力で、病院が発展し、地域に必要な急性期を中心とした医療を提供していることに、敬意を表します。医局から派遣したチームが病院を活気づけ、その発展に貢献できたとすれば、私にとって望外の喜びです。

私は、鹿児島大学を定年退職した2013年に鹿児島市病院事業管理者・鹿児島市立病院長を拝命し、その後も、当院副院長の鮫島幸二先生が出水総合医療センターの事業管理者に就任するなど、有り難いことに、出水総合医療センターとのご縁が続いています。椎木市長の変わらぬご厚情と病院事業に対する深い理解に感謝申し上げます。

これから言わずもがなの人口減少、働き手の減少の時代を迎え、地域医療のあり方は、患者数や疾病構造の変化を予測し、準備し、進化していかなければなりません。100周年という大きな節目を迎えた出水総合医療センターが、今後も益々充実・発展して、地域住民に必要な医療を持続して提供されるよう心より祈念しています。

出水総合医療センター創立100周年、誠におめでとうございます

福岡大学病院病院長
福岡大学医学部心臓・血管内科学教授　三　浦　伸一郎

この度は、出水総合医療センターの創立100周年、誠におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

出水総合医療センターは、基本方針にありますように、市民が必要とする地域医療の提供、患者の立場に立った医療、地域完結型医療における基幹病院としての役割を担われております。病院の沿革を拝見しますと、1925年(大正14年)３月に米ノ津町立米ノ津医院として創立されており、100年の長きに渡り、地域医療に貢献されてきたことに敬意を表します。2023年、福岡大学病院は、開院50周年を迎えましたが、いまだ、医療センターの半分の歴史しかないことに驚きを隠し得ません。私たちも100周年を目指して、地域医療密着型の患者中心の温かい医療を提供していく気持ちを新たにいたしました。

福岡市から出水市までは、福岡県から鹿児島県までと考えると遠方のようですが、新幹線で１時間10分ほどの非常に近い距離にあります。2009年、福岡大学医学部を卒業され、現在、開業されております楠元孝明先生が出水総合医療センター循環器内科に勤務されてから、福岡大学医学部心臓・血管内科学から循環器内科の医師を継続して派遣させていただいております。2019年からは、循環器内科常勤医３名体制といたしております。

また、2019年３月16日には、私自身が出水総合医療センター心臓病市民講座にて「学んで予防！動脈硬化と冠動脈疾患」の講演をさせていただきました。会場は、満席で市民の皆様の病気予防に対する意識の高さに感心したことをよく覚えております。最近では、非常勤医師も３名派遣し、冠動脈形成術のみでなく、末梢動脈形成術や不整脈に対するアブレーション治療も実施させていただき、2023年度には、延べ外来患者数10,697名、延べ入院患者数7,748名、ペースメーカー移植術26件、心臓カテーテル検査117件、経皮的カテーテル心筋焼灼術46件、四肢の血管拡張術・血栓除去術14件となっております。

今後も、出水市の循環器医療に少しでも貢献させていただければと思っております。出水総合医療センターの益々のご発展を祈念しております。

出水総合医療センター　心臓病市民講座（２０１９年３月１６日）

３月16日（土）に開催しました「心臓病市民講座」は会場が満席となり、たくさんの参加をいただきました。
今年度も市民のお役に立てるよう市民講座やタウンミーティングを計画していますのでぜひご参加ください。

引用元：出水総合医療センター広報誌「ひまわり」令和元年度第１号

創立100周年にむけて

出水市病院事業運営委員会会長
鹿児島大学名誉教授　熊　本　一　朗

出水総合医療センター創立100周年、誠におめでとうございます。

大正、昭和、平成、令和の各時代を通して、長きにわたり着実に運営し発展され続けてきたことは驚きでもあります。私と出水総合医療センターとの関わりは少ないものですが、昭和、平成、令和の各時代に何かしらの“縁”を持ちましたので、この創立100周年記念誌への執筆の依頼を光栄なこととしてお受けし、ここに拙文を書かせていただきます。

昭和の時代：　私は鹿児島大学医学部を1980年に卒業後、井形昭弘教授の主宰される鹿児島大学医学部第三内科講座に入局し神経内科専門医となっていました。当時、鹿児島県の水俣病認定審査の検診が出水市立病院の外来診察室をお借りして実施されており、私も数回にわたり参加して、まだ古い建物であった出水市立病院に立ち寄らせていただいたことがありました。懐かしい思い出であります。

平成の時代：　私は鹿児島大学病院医療情報部において、日本で最初のオーダリングシステムによる総合病院情報システムTHINKを企画、開発、運用しておりました。その頃当時の大熊利忠病院長に「オーダリングシステムと総合病院情報システム」の特別講演にお招きいただき、職員の皆様方に医療とコンピュータシステムの講演をいたしました。このことも出水総合医療センターの1995年のオーダリングシステム導入、2012年の電子カルテシステム導入につながったものと考えます。

令和の時代：　平成の終わり頃から出水市長の諮問機関の「病院経営諮問会議」の委員長を務めさせていただきました。私はその後も引き続き、病院事業管理者のもとに設置された「出水市病院事業運営委員会」の会長に任じられております。この運営委員会では、出水市病院事業会計報告や出水市病院経営強化プランの進捗状況を毎年検証する役割を担っております。年に２回ほどの開催ではありますが、委員には市民の方が公募にて参加していただき市民の現場の目線でのご意見をいただいており、これは市民参加の委員会として画期的なことであります。今後とも微力ではありますが、出水総合医療センターの発展に尽力できればと考えております。

22世紀の医療には考えが及びませんが、次の100年22世紀に向けての出発でもあると考え、100周年の重みに思いを馳せさせていただきました。

出水総合医療センター 100周年に寄せる

出水郡医師会会長　來　仙　隆　洋

出水総合医療センター（以下、「医療センター」と称す）が100周年を迎えるに当たり、我々医師会は、この特別な節目を振り返り、医療の進歩と地域社会への貢献を、再確認する機会としたい。

1925年３月に、米ノ津町立米ノ津医院が産声を上げた。医療センターの前身である。医院に関する当時の史実が手元にないことが残念であるが、1919年に結核予防法、1922年に健康保険法が整備されたので、医療の主たるターゲットは、肺結核であったことが類推できる。ちなみに健康保険法の対象者は労働者で、農民・漁民・自営業には整備されなかったようで、現代の我々の観念からすれば、いささか不平等な法律と言わざるを得ない。

さて、米ノ津医院は米ノ津町立病院、その後出水市立病院、そして出水総合医療センターと名称を変更し、今に至っている。その歴史の中で、地域住民の健康と命を守る重要な役割を果たしてきたわけであるが、過去には限られた医療資源の中で、使命感に燃え尽力してきたであろう、医療従事者たちの姿を思い浮かべずにはいられない。彼らの献身的努力が、今日の医療センターの基盤を築いてきたことに、感謝の意を表したい。

また、時代が進むとともに、医療技術は飛躍的に進歩し、医療センターもその変化に対応してきたわけである。最新の医療機器や治療法の導入、専門医の育成、地域医療との連携強化など、常に患者さんの求めに応じて進化を重ねてきた。特に地域密着型の医療を重視し、予防医学や住民への健康教育にも力を注ぎ、地域全体にとり大きな安心につながっているはずである。

今回100周年を機に、我々はこれまでの歴史を振り返るだけでなく、未来に向けたビジョンも描く必要がある。医療のデジタル化、ＡＩ技術の導入が進む中、医療センターがどう地域医療をリードしていくのか、次世代の医療従事者たちがどのように成長していくのか、期待が高まる。

最後に、医療センターの100周年を祝うこの機会に、これまで地域の医療を支えてくださった医療・保健・福祉・自治体及び諸関係者の皆様に、心より深謝申し上げたい。